



漫湖水鳥・湿地センター 秋休みイベント

ずこうのじかん

期 間：2011年10月8日（土）～10月16日（日）
場 所：漫湖水鳥・湿地センター

ワークショップ

「秋の色、草木染め ～巨大布飾りをみんなで作ろう!!～」

日 時：10月10日（月） 10:00～13:00
定 員：18組
対 象：小学生以上（※低学年は保護者同伴）
講 師：並河善知さん（藍染なみかわ）
参加費：¥100（※保険料として）
持ち物：エプロン、筆記用具、飲み物

秋の漫湖で見つかる草木を使った草木染め、色とりどりの布に、絞り染めで“漫湖の水鳥たち”を描いてみよう!!

造形あそび

「落ち葉でスタンプ」

日 時：10月8日（土） 10:00～12:00
定 員：20名
対 象：小学生以上（※低学年は保護者同伴）
講 師：漫湖水鳥・湿地センター職員
参加費：¥100（※保険料として）
持ち物：筆記用具、飲み物

落ち葉や木の実をスタンプにして、ベタベタ押ししてみよう!!どんな形が出来上がるかな?

「木炭デッサン」

日 時：10月15日（土） 10:00～12:00
定 員：20名
対 象：小学生以上（※低学年は保護者同伴）
講 師：漫湖水鳥・湿地センター職員
参加費：無料
持ち物：筆記用具、飲み物

マンローブで作った木炭を使って、鳥の絵を描いてみよう!!どんな絵になるのかな?

「ガラクタあそび」

日 時：10月16日（日） 10:00～12:00
定 員：20名
対 象：小学生以上（※低学年は保護者同伴）
講 師：漫湖水鳥・湿地センター職員
参加費：¥100（※保険料として）
持ち物：筆記用具、飲み物

漫湖で拾われるゴミたち。そのガラクタを組み合わせて鳥のオブジェを作ってみよう!!

【予約・問い合わせ】

漫湖水鳥・湿地センター ☎098-840-5121



漫湖水鳥・湿地センター
たより

10
月号

No.086
2011年9月25日

今月のトピック

※今月号と来月号の『いきものファインダー』はお休みします。

特集

『漫湖自然学校 —夏休みは、発見がいっぱい。—』その2

先月号に引き続き、夏休みに行われたセンタースペシャルイベントの様子をお伝えします。

8/21（日） 夜の観察会『ナイトウォーク』

夕刻、日が落ちて薄暗くなった漫湖では、夜に活動する生きものたちが顔を出し始める時間。オカガニやアシハラガニモドキはゆっくりと穴から体を出して動き出す。エサを探しに飛び立つオオコウモリは、豊見城城址の方角から、センターの目の前を夜の町へと横切っていく。普通、センターが閉館している時間帯には見ることでできない風景と生きものたちの姿が、参加者たちを驚かせていました。特にオカガニにはみんな大興奮でした。今回初めて企画したナイトウォークにも、新しい発見がたくさんありました。



昆虫のトラップ



泥のガタスキ

8/28（日） 泥の観察会『泥の中のいきものたち』

夏休みの最後を飾った泥の中の観察会。カニの観察会と並んで人気のある観察会で、それこそ夏にしか体験できない特別な観察会です。参加者たちは、各々にガタスキと呼んでいる（厚めの発泡スチロールを長方形にカットした）ものを使って泥干潟の上を進んでいきます。その扱いの難しさに、途中、足をハマらせる子どもが続出する中、泥の中に暮らしているヤキララハゼやチワラスボといった魚の仲間や、テッポウエビ、ヒメヤマトオサガニ等を見つけることができました。その他にも、ふるいにかけて見えないくらい小さな生きものも泥の中にはたくさん住んでいることが分かりました。

夏休み、漫湖で見つけたたくさんの発見が、子どもたちの探究心を刺激し続けるといいですね。

漫湖水鳥・湿地センター
Manko Waterbird and Wetland Center

〒901-0241 沖縄県豊見城市字豊見城市 982
TEL: 098-840-5121 FAX: 098-840-5118
E-mail: manko_mizudori@ybb.ne.jp
URL: http://www.geocities.jp/manko_mizudori/

特集 - 2

『第2回沖縄県子ども環境会議』

7月、台風9号の迷走のおかげで延期されてた『第2回沖縄県子ども環境会議』が去った8月23日・24日の両日、漫湖水鳥・湿地センターで無事開催されました。

今回の参加は県内から漫湖（那覇市・豊見城市）、久米島の溪流湿地（久米島町）、名蔵アンパル（石垣市）、慶良間諸島海域（渡嘉敷村・座間味村）、カーミージー（浦添市）の計5湿地、総勢35名の子ども達が集まって、日頃の活動の発表や意見交換等を行いました。

この会議は、沖縄県内でラムサール条約に登録されている4湿地と、その他の各湿地で活動する子どもたちの交流の場を創出する事を目的としています。2回目となる今年は、前回参加した子ども達が多く、久しぶりに再会した仲間たちとのアットホームな雰囲気の中行われました。それぞれの発表を通して、この一年の各湿地の取り組みが見てとれました。また、それぞれに取り組むテーマや手法の違い、その成果等についても特徴が出ていて、見ている大人も興味深いものとなりました。特に、久米島ホタルンジャー（久米島町）や港川小学校（浦添市）の学年を越えた継続的な環境保全活動は、コカ・コーラ環境大賞も受賞しており、全国的にも優れた取り組みとして広く紹介されています。このことは、他湿地の子ども達にも大きな刺激を与えたに違いありません。

“40年後の未来に向けて、
私たちに出来る事は何だろう？”

二日間の会議を通して話し合われたテーマは、“40年後の未来に向けて”です。これは今年がラ

ムサール条約40周年にあたることから、「40」という数字をキーワードに、未来のために今から出来る事をみんなで考えるというものでした。熱い議論の末、子どもたちから出た意見を最終的に4つにまとめてみました。

- ・ゴミ拾いを続けて湿地を守り、外来種を減らして生き物を守りたい。
- ・全ての人が自然に関心を持ち、全ての人が自然を守る努力をする事で、40年後は泳げる漫湖にしたい。
- ・湿地を守る活動を続けるために、小さい子ども達にも参加を呼び掛ける。
- ・今までやってきた環境保護の取り組みが40年後も続いて、その結果環境が良くなってほしいなあ…。

この発表を持ち帰り、子ども達はこれからどんな取り組みを見せてくれるのでしょうか。もちろん、私たち大人も一緒になって考え、行動しなければその答えは見つからないでしょう。



子どもたちの議論の様子

“つながり”が生まれる瞬間。

こうして、今年も無事に終わることができた「沖縄県子ども環境会議」。なによりも、回を重ねるごとに生まれていく子ども達の“つながり”に、その意義を再確認した会議となりました。

最後に、この会議を開催するにあたってたくさんの方のご協力がありました、この場をお借りして感謝申し上げます。

来年はどんな会議になるのか今から楽しみです。



フィールドワークの様子

今月の野鳥情報

漫湖寄鳥見鳥 9月

えっ!?こんなところに、キアシシギ!?

9月、企画展の準備に追われ、なかなか鳥を見に行く時間が取れなくて、いつもより少ない時間での観察になってしまいましたが…、ちょうどこの時期、潮位が高い周期にあたっていて、満潮になるとセンターのすぐそこまで水が上がってきていました。そのせいで、いつも羽を休めている背の低いマングローブも水に浸かってしまい、休む場所を無くしたアカアシシギとキアシシギが、普段は絶対にとまることのない場所のマングローブの枝の上に列をなしてとまっていました。

狭い場所が落ち着かないのか、時折羽をばたつかせ小競り合いともとれる仕草を見せながら、一生懸命自分のスペースを確保しようとしているキアシシギが印象的でした。



2011. 8/21 - 9/20 漫湖で確認された野鳥

28種

ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ミサゴ、オオメダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、アカアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、チュウシャクシギ、セイタカシギ、キジバト、カワセミ、シロガシラ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、セッカ、メジロ、スズメ、ドバト